

その他の土木工事業における地山、岩石を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	11～ 12	ガス管埋設工事の現場で、掘削深さが1.5mに近づいた為、土止め支保工を設置する為掘削穴に入ったときに、壁になっていた碎石がくずれ左足に当たり左足ひざ部分を痛めた（左足膝靱帯損傷）。少し見えた水道管を確認しようと、壁から目をはなしたのが原因と考えられる。	44	—
1	11～ 12	作業法面中腹（崩壊法面）にあっては、道路からの高さ120m、法肩40m下りた箇所、メインロープ、ライフラインの2本を使用して、作業に使用する金網を水平方向に運搬中に、メインロープ、ライフラインの2本の親綱の上方が、法面中腹の凸部に引っかかり、被災者本人が、それに気づかぬまま横移動を続けた結果、何らかの原因で引っかかりが外れ、地山に衝突し、肋骨、腰椎を骨折したものである。	47	—
2	11～12	ガス管150mm堀上工事においてガス管堀上作業完了後、残置ガス管の管端処理を行うには再掘削が必要となり、機械掘削には、山留材が支障となるため、山留材を撤去したところ崩壊し、落下したアスファルト（幅0.5m×厚さ0.1m×長さ2m）に右足を挟まれ、右下腿部を挫傷したものである。	32	—
2	14～15	工事現場にて、重機でコンクリート殻を処理作業中に、コンクリート殻を堆積している所から、コンクリート殻の1つが落下し、仕分け作業をしていた被災者の足の指に当たった。	23	1 ～ 9
2	9～10	クレーン作業による、金網運搬のため、道路上に13tクレーンを据えた後、法面作業員とクレーン付近で無線機の受け渡し等をしていたところ、法面左上部から落石が発生した。落下した岩自体は、既設の落石防止策で止まったが、落石防止策に当たった瞬間粉碎・飛散した岩の一部がクレーン運転手の左肘付近に接触し怪我をし	20	10 ～ 29

		た。		
2	15~16	タンクからの漏水による陥没の復旧作業に従事していた。ポンプ車によりコンクリートの打設作業中、コンクリートの入りを確認しようと覗き込んだ時、土砂が崩れ、土の塊が背中に当たった後、左足首を直撃した。	64	1 ~ 9
3	16~17	床面湧水処理で床付面より一段掘り下げて水中ポンプによる水替え用釜揚げを掘削しており、水中ポンプへ砂の流出防止柵を設置の作業をしていた。掘削法面土砂が崩壊したため、土砂と共に砂流出防止柵が右足膝下に接触し、左側方に転倒した。掘削法勾配（1:05）を確保できておらず、現場法勾配（1:03）はであり、且つ、地山掘削の状況の危険度を軽視していたと思われる。	60	10 ~ 29
4	15~16	会社の資材置場で、地面にある庭石（丸型、直径50cm位）の整理作業中、石を横へ少しずつ手でずらしながら移動させていたところ、誤って他の庭石との間に指を挟んでしまった。	51	1 ~ 9
5	14~15	林道上部の法面对策工事現場で法面上部に昇降するための仮設階段を法肩部に設置していたとき、法長45mまで登った箇所で踊り場上部斜面から岩石（長さ100cm・幅50cm・厚さ30cm）が落下して直撃、もしくは避けようとして踊り場から転落し、約20m下の沢へ滑落した。	55	1 ~ 9
5	14~15	林道上部の法面对策工事現場で法面上部に昇降するための仮設階段を法肩部に設置していたとき、法長45mまで登った箇所で踊り場上部斜面から岩石（長さ100cm・幅50cm・厚さ30cm）と共に落下し、昇降階段脇に転落して被災した。	63	1 ~ 9
5	10~11	落石防止網工の施工中に作業員が法面（高さ2.0m）から転落した。金網架設時、高さ5m付近の障害物に金網が掛かってしまい、それを作業員が手で外したあと降下中に高さ2m付近で転落した。法面降下中に金網用フックが付いていると思い親綱を外したところ、フックが外れており転落した。	53	1 ~ 9
6	11~12	草刈工事で草刈清掃中に、足を滑らせて下に転落した。その際に、右足首内側のくるぶし下を骨折したものである。	47	10 ~ 29
		会社の資材置場で、草刈機で除草作業中、生い茂った草で見えなかったU字溝の上		10

6	8～9	に乗り上ってしまった。雨が降っていたため滑って、左側に転倒してしまい、左側の首を強打した。	72	～ 29
9	13～ 14	区内の草刈り清掃中、土手の傾斜より転倒した。その際、使用していたビバーが右足首に接触し切傷した。	71	1 ～ 9
9	15～ 16	構内の坂道を迂回せずに、途中の傾斜を手ぶらで昇降していた時に、左足が溝より左側に傾いたので、左手で体を支えた手首を痛めて、そのまま横倒しに転倒して左胸を強打した。そのまま座り込み社有車で医師に搬送して診断を受けた結果、左手首と左胸骨折打撲、背部打撲で休業加療の見込みとなった。	64	50 ～ 99
10	15～ 16	排水管布設替工事現場内の掘削開口部内で配管作業中に、当事者の肩から足元に土砂が崩落した。	30	1 ～ 9
10	13～ 14	現場内で勤務中。次の仕事の説明を受けようとして急ぎで移動中に10センチ以上の高さの段差を越えて、起伏凹凸の多い地面に踏み出した直後に右ふくらはぎに激痛を感じた。	51	10 ～ 29
11	15～ 16	中コースNo.9ホールにおいて、排水管を布設中、掘削側面が崩れ落ち、中で布設作業中の作業員が巻き込まれて被災した。	36	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html